



第19回御蔵学校 報告

3月21日、御蔵学校第19回目を行いました。今回のテーマは「復興まちづくり15年と御蔵とまち・コミ」で、運営委員を中心にお集まりいただきました。

現在、まち・コミで取り組んでいる、活動の記録誌づくりの一つ目の成果品であるパンフレットを元に、まずは宮定から報告を行いました。その後、今年1月16日に放送された関西テレビの特集「震災15年 神戸・御蔵通から ~まだ見ぬ復興の夢を追って~」を見て、担当ディレクターの豊島学恵さんから話題をご提供いただきました。その後、参加者からまち・コミの現状やこれからのに関するご意見や思いをうかがいました。トータル11時から17時まで、途中休憩を挟んでの5時間弱のディスカッションでした。

途中の休憩時間は、国家戦略室の仙谷由人大臣が来られるという、飛び入りプログラムもありました（ご報告は、本誌5ページ）

今号で、御蔵学校での話の内容を簡単にご報告いたします。（同封いたしました資料「阪神・淡路大震災から15年 復興まちづくりに関わって学んだこと」（宮定章）もあわせてご覧ください。）

出席者：豊島学恵、今田忠、浦野正樹、大矢根淳、末正盛隆、野崎隆一、加藤洋一、田中保三、宮定章、戸田真由美
司会進行：東末真紀（神戸まちづくり研究所）（敬称略）



記録誌作成へのアドバイス

・日本の社会の中での政治状況の変化も、活動に影響しているはずで無視できない。神戸市が置かれた環境の変化も重ね合わせながら、被災地全体の状況変化と、国レベルの政治の変化、ローカルなリージョナル・ポリティクス（地域の政治的な問題）と、まち・コミの活動をうまく重ね合わせると、大きな流れが全体像として見えてくるのではないか。

・プラザ5が解散し、ソフトの取り組みとして重要な、NPO法人「まごころみくら」も解散した。御蔵でのコミュニティビルディングについては失敗したといえる。

・旧自治会の状況が、震災でどんな変化をして、震災後にできた組織との関係が時代毎にどう推移していったのかは、伏線として重要。地域の潜在的なリーダー層と、震災で新しく出てきたリーダー層との葛藤があったらう。

・まち・コミの活動やイベントは、地域向けのもの、外部向けのものがある。過程の中で必然的に外部とのつながりを展開していく部分はあったらうと思われる。活動の意義を掘り下げるにあたって、地域の人たちに理解してもらわなければならない水準のものがあるが、まち・コミ自体が開発できなかったために、外部とのつながりの中で模索しながら作り出そうとした動きがあるのではないか。理解できなかった部分をどのような形で見せる工夫をし、コミュニティビルディングのテコとして使えたかという部分は重要。まち・コミの中でどれくらい意識されて、展開されていったのかを見てみたい。他の被災地でも必ず起きる問題だ。

・年表をきちんと作り始めてみると、まち・コミ内部の主要メンバーの記憶や視角だけでは埋め切れない空白があることが見えてくる。それを埋める言葉（記憶や記録）がまち・コミに無いのでは。記録づくりのなかで、この空白のマス埋めることができれば、多様なスタンスを取る多様な人々に、思いを共有してもらえらる糸口が見えてくるのではないか。

.....

関西テレビディレクター 豊島学恵さんから話題提供

今日は何か自分の話がヒントになることがあ

ればと思って来ました。

私は御蔵で震災5年の取材をして以来、何度か取材しています。僕にとってこんなに長く取材をしている被災地は他にないので、震災15年の番組の企画でも御蔵を取り上げようと思いました。「御蔵の今」が被災地としてどういう意味を持っているのかなということを考えながら約2ヶ月、腰を据えて取材しました。その中で取材の軸になった一つが、みくら5を出た住民の方の話、もう一つが初代まち・コミ代表の小野さんが神戸の復興を自分なりに見つめ直すという取り組みを始めたこと、この2つを追いかけました。しかしその前提としてこの街のことを描くには、自治会と旧まちづくり協議会、まち・コミ間の亀裂を伏せることはできなかったので伝えました。

改めて僕がこの場で話をする必要はないとも思いますが、今の御蔵の状況を世間にお伝えしたという責任が僕にあるので、放送してどうだったのかということは逆にうかがいたいと思っています。

参加者からの番組への意見

・どの報道でも、外側からの見え方が表現されている。今回の番組でも、それがよく分かったし、受け止めなければならない。

・住民間の亀裂は、大なり小なり他地域でもあるものであり凝縮して御蔵に出ている、というのであれば、そこを徹底的に取材するべきだったのでは。

・自治会がどういうまちづくりをどう展開しようとしているのかを掘り下げて欲しかった。地域がしようとしていることと、まち・コミが外部とのネットワークの中で蓄えてきた知見とが交差できる部分があるのではないか。

.....

まち・コミのこれまでにについて

・寄り添い型でまちづくりをやってきたが、地域住民との違いが無くなってきて、同じだという感覚になる。専門家として入ると、出来るだけ寄り添うようにはしても、一線を引くことになる。それがうまく成立しなかったのでは？

・まち・コミは、普通のまちづくりNPOでもないし、災害専門でもない。ちょっと変なところ

だけれども、なんとなくおもしろくて魅力がある。おもしろさが何かはわからないが、もっとおもしろく感じさせて欲しい。

・田中さん(元町づくり協議会会長、まち・コミ顧問)の人を引っ張っていく力が強いので、半信半疑のままついてきている人もいるのでは。

・自治会館にしても、移築を決めた時に感じた良さを引き続き共有できるような、イベントなどの機会を常に作っていく必要があった。

・地域の中での出番と居場所は住民にとって必要で、うまく演出していく余地がソフトの部分にあったのではないか。もしかしたら外部ボランティアが機会を奪ったと思われたのかも。

・まちづくりをしているとリーダーが自腹を切ることはいかにあるが、気づかれていないどころか、お金を握っていて自由に使い、儲けているとまで思われることがある。

・根本的な問題だが、善意に対する疑いがあるのではないか。なぜ一生懸命になれるのかが理解されにくいのだろう。自分にできる能力と機会があればやろうという気持ちが伝わればいいが。

・ボランティアというと、いいことをしている人としてもらっている人、という感じがしてしまうのではないか。外から見ている人も後ろめたいだろう。

・正当評価をされればいいが、心ない人たちが心ない誤解をしたままでは、次にいい仕事ができないのではないか。

・震災当時はどのグループもまさにボランティアだったが、継続的にまちづくりを支援していくと決めた段階でまち・コミは変化した。そこが地域の人には理解できず、有償ではいけないという誤解につながっている。ボランティアではできない、ある種の専門性を持って活動を続けてきたことを認識してもらう必要があった。

まち・コミの今後について

・まち協の支援をしてきたまち・コミが、まち協の解散を出発点にどうするかという話をもっと展開しなければならない。

・まち・コミに若い人たちが集い、活動していることにもっと注目して欲しい。

・活動したいと思っている人や、現在地域活動にあまり参加していない人が出入りできる居場所

作りが必要では。

・コミュニティにとってどういうメリットがあるか、返せるものがあるか。なければ、あいつらは好きでやっているという風に見られる。

・震災で、地域にあった関係性が壊れたわけで、その構築が必要。再構築にはどういう形があるかということ古今内外の事例から学べばよく、そのうちここ御蔵で何が可能かということを見ていくと、最初のスタートは触覚(昆虫の触角のような...)。あるいはアンテナショップのような...)としての機能を果たすことではないか。という風に組み上げていくかは、議論しなければならない。

・コミュニティーサービスの事業化への道を何度も模索した経緯がある。どういう団体に、どういうタイミングで育っていけばいいのかが常に課題になる。経営の仕方も違う。

・地域の何の役に立っているのかというのが基本。一つは事業化して、街を活性化して、産業を誘致して、雇用を生み出していくというのが1つの方向。街がにぎやかになり、人が働けるようになり、暮らしが豊かになるというメリットがあれば。

・何がやりがいなのか、どう思われたいのかが問われる時代にさしかかっているだろう。存在価値そのものに戻ってくる話だ。

・御蔵の中のまち・コミと、日本、世界の中のまち・コミの側面がある。記録づくりで振り返り、まち・コミが持っている資源は何かをきちんと確認しなければならない。15年の知恵の発信にもつながる。

・資源の中で、外部の知恵は充分にある。ただ、実際に動く、人的資源が今減っているので、補充が必要では。

・まち・コミの資源を生かせば、まちづくりを目指す若者のための「道場」、まちづくり活動や情報の「交差点」になるだろう。

・目標を立て、達成するための戦略が必要。

・ミッションを感じながら、楽しく充実させて、まちづくりをして欲しい。

長時間に渡りありがとうございます。至らぬところが多いですが、今後も、みなさまの意見を生かして楽しさを感じられる場づくりに取り組んで参ります。(宮定)

みくらエッセイ

「地域の『生き甲斐創造』パソコンクラブ10年」

金海 泰希

御蔵に住んでいる金海泰希と申します。私は韓国済州から日本に来て18年になります。私は家庭を持ち、町の小さなケミカルシューズ関係の工場で働いています。仕事が終わってからは、週に一回のペースでパソコンや韓国語を教えています。

今、私がやっているパソコンクラブを簡単に説明すると、そのきっかけになったのはプラザ5(みくら5の1階のコミュニティスペース)で開かれたパソコン教室での出会いからです。その卒業生を引き続き教えたのがパソコンクラブの始まりでした。

年配の方が多く初めは3ヶ月位してみようかな? という事で始まったのが、今年で10年目を迎えています。最初は6人で始め、友達をつれてきて増え、今は18人います。クラブを始めた当初からほとんどMemberは変わっていません。年齢は50歳~70歳で、ほとんどが女性です。中にはこの10年間一回も休み無しで来られる方も結構いらっしゃいます。

教えている内容は、面白い方がいいと思ひ、なるべく文字や数字を使わず、写真加工を中心にしています。お孫さんの写真や旅に出た時の思い出の写真を編集し、DVDや年賀状などを作っています。長くても半年位あればマスター出来るレベルです。それが、同じ人に10年も教えるなんて思ひも寄りませんでした。難しいのに諦めないで、毎週一回必ず来られる訳です。

皆、阪神淡路大地震で被害を受けた方で、その中にはご主人を亡くした方、会社、家、家族を失った方がおられます。私自身震災で家を失いましたが、その位で全てを失ったみたいは何にも出来なかったのが取っかく思ひました。全員が勇気を無くさず、働きながら前向きに生きる姿に、お互いを意識し始めました。震災で受けた辛さをMemberでが分かち合い、支え合いの心が生まれたかも知れません。

なぜ10年間パソコンクラブを続ける事が出来たのか、やっと分かるようになりました。パソコンという道具から会話が始まり、人と人が触れ合い、絆になって、これからも続くのです。パソコンよりも、お茶を飲みながらのおしゃべりを楽しみにして来られる方もおられます。同じ人にパソコンを、10年間も教える内容(ネタ)はありません。教えるより逆に大事な事を教えて貰いました。

今、日本は雇用問題で厳しい状況に置かれています。この地域も同じです。けれども私は、どんな悪条件でもそれを乗り越える自信があります。それは私を応援して下さる仲間がいて、生きる力を皆さんから学んだからです。自分が助けて貰おうと思ったら、先に自分から助けに行く大事さも分かりました。このすべては、足を運びやすい場所、プラザ5があったからです。誰でもDoorを開けて入ると仲間にしてくれる、人と人が触れ合える空間があったから、今の私があると思ひます。この場を借りて、プラザ5の場所を提供して下さった田中さんに心から感謝します。有難うございました。

後列左端が金海さん



まち・コミ news



仙谷大臣来訪

2010年3月21日、内閣官房国家戦略室の仙谷由人氏(国家戦略担当大臣)、古川元久氏(内閣官房国家戦略室長)始め、国家戦略室の方と「新しい公共」についての意見交換会をさせていただきました。



国家戦略室から「長田区は、震災により大きな被害を受けた後、ボランティアを中心に復興活動が行なわれ、まちづくりへと発展している。これらの活動は「新しい公共」の考え方の原点ともいえる。国家戦略室において昨年12月に取りまとめた「新成長戦略(基本方針)」の中で、これからの国の地域振興策は、NPO等の「新しい公共」との連携の下で、特区制度等の活用により、地方の「創造力」と「文化力」の芽を育てる施策に転換しなければならないとしている。その一つのモデル地域として、長田区の実践を参考にしたい。これまでのまちづくり活動の取組みから得られた喜び、楽しみ、苦労話などを直接伺うことにより、本来有している住民、ボランティア、NPOの力を最大限生かせるまちづくり活動を促進するための方策について意見交換したい。」とお話がありました。

正岡健二さん(鉄人28号プロジェクト理事長)、南研泰さん(新長田北地区東部まちづくり協議会副会長)、金海泰希さん(パソコンクラブ代表 要旨は本誌p4)、田中保三(元御蔵通5・6・7丁目まちづくり協議会会長)、まち・コミが代表して意見交換しました。昼食は、震災学習と同じように、震災時を思い出すため、温かい豚汁をご婦人方が作ってくださり、皆でいただきました。

大地のつづやき

「自動車つれづれ」

今年三月末に半年近く待ったプリウスが入った。新車に乗ったのは初めてだ。昭和四十一年に二万五千キロ走った中古のブルーバードを月給二万八千円の頃に二十六万円で買った。

会社から借金して毎月一万円天引きしてもらっていた。それでも仕事が休みの日に遠出して楽しんだ。始めは近畿圏、そして中京、中国圏へ、遂には九州一周に及んだ。名神高速多賀サービスエリア近くでオーバーヒートして、騙し騙ししてサービスエリアのスタンドに駆け込み修理に六時間もかけ一泊旅行の積もりが日帰りになった。宿泊費が修理に費えたのだ。

九州一周では高速道路のない時代夜九時に大阪を出発、朝十時に福岡の私の母方の実家で小休止、相棒の鹿児島県阿久根市の実家に夕方四時頃到着、高速道路は名神だけだったので国道2号線3号線とひた走った。宮崎大分熊本長崎佐賀と全てを走破した。中でもやまなみハイウェイや天草五橋は素晴らしかった。中古のブルーバードも三万五千 km走るとやたらオイルを食うようになり、近くの修理工場でもらうとピストンをボーリングせんとアカンと言われ修理代四万五千円也。一ヶ月の給料でも足りない。高い修理代を払いながらも走り回っていた。二代目もブルーバードの中古。その後コロナのオートマ。クラウン、マークII、クラウン、マークIIと全て中古だった。最後のマークIIは初年度登録平成六年物で、高速道路なら十 km/リットル走るが、平地なら六、五 km/リットルしか走らなかつた。

さて、プリウスだがこれはなかなかの車だ。センサーメーターに色々な情報が表示される。エコドライブモニターでは電池とガソリンがどう組み合っているのか、或いは充電しているのか、良く分かる。ハイブリットインジケーター画面でも現在の運転はエコ運転なのか、一目瞭然だ。私の四十五年に及ぶ運転歴は発進時や急加速が如何に燃費の浪費か。表示見ながら慎重運転を心懸け反省しきりだ。只今二十四 km/リットル。

株式会社兵庫商会 田中保三

まち・コミ活動報告

4/1 ~ 4/30

- 4/4 東京都立国立高等学校下見
- 4/5 まち・コミ運営委員会
- 4/6 まち・コミ打合せ
- 4/6 震災学習打合せ
- 4/7 WEBまち・コミ会議
- 4/7 まち・コミ記録誌
パンフ制作お疲れさま会
- 4/10・11 出石市民農園
- 4/16 震災学習(南砺市立井波中)
- 4/22 まち・コミ打合せ
- 4/22 東京都総務局総合防災部
職員視察受入
- 4/22 まち・コミ記録誌
事務局打合せ
- 4/27 KissFM 秀香
「こころのことば」出演
- 4/27 神戸大学塩崎研究室
研修受入
- 4/28 関東都市学会発送作業
- 4/30 まち・コミ記録誌
編集委員会



作家の陳舜臣さんが、台湾へ移築した古民家に、ご自身が書かれた書を寄贈してくださいました。

ご支援、ありがとうございます。

4/1 ~ 4/30

賛助会員(新規・継続)

清水一郎(東京都) 藤原柄彦(兵庫県) 豊島区都市計画課都市復興グループ(東京都) 松山真(埼玉県)
熊谷博子(東京都)

寄付

協力 社団法人シャンティ国際ボランティア会(東京都) 株式会社兵庫商会(兵庫県) 【順不同・敬称略】

新規賛助会員募集&更新のお願い

まち・コミでは、さらに活発に活動を行うため、賛助会員を募集し、金銭面でのご支援をいただいております。会費は、事業推進のために活用させていただきます。賛助会員のみなさまには、会員特典をご用意しておりますので、ぜひ賛助会員への登録をお願いいたします。

また、賛助会員は1年更新とさせていただきます。現在賛助会員の方も時期がきましたら、更新をお願いいたします。(期限は、「月刊まち・コミ」郵送時の封筒の、宛名の下に記載していますので、ご確認ください。)

会員特典

本誌「月刊まち・コミ」の送付。

まち・コミュニケーションに関する、Eメールでの情報送付、WEBの特別ページの参照

よろしくおねがいいたします。

編集後記 今号で、「月刊まち・コミ」130号目を迎えました。これからも読者の皆様へ、まち・コミの活動報告を中心に、情報をお届けしていきます。(戸)

年会費

個人・法人 年間5000円
学生 年間3000円

郵便振替口座番号

00950-3-42788

口座名称

「まち・コミュニケーション事務局」

2010年5月1日発行

編集/発行 まち・コミュニケーション

定価 100円

御蔵事務所 〒653-0014

神戸市長田区御蔵通5-5

TEL 078-578-1100 / FAX 078-576-7961

東京事務所 〒162-0052

東京都新宿区戸山1-24-1

早稲田大学文学部浦野研究室内

神奈川事務所 〒214-8580

神奈川県川崎市多摩区東三田2丁目1-1

専修大学文学部大矢根研究室内

e-mail m-comi@bj.wakwak.com

URL http://park15.wakwak.com/~m-comi/